



菅波 茂

アフリカ南部にあって周囲を8カ国に囲まれている内陸国ザンビア。周辺にはモザンビーク、アンゴラ、コンゴ共和国(旧ザイル)など紛争当事国があるが、ザンビアは紛争がないことで知られる平和な国だ。首都ルサカではたびたび紛争の調停会議が開催される。

このルサカにAMDAの緊急救援センターを設立する構想が進んでいる。活動内容は日常的な救命活動のための救急車による搬送、コレラなど疫病発生時の防疫、雨期の洪水災害救援、そして周辺国からの難民流入時

の救援が挙げられる。

AMDA緊急救援センター構想

しかしザンビアは世界有数の最貧国でもあり、政府保健省の活動も資金不足のため、ままならない状況だ。アフリカでは有数の親日国でもあり、AMDAも国際協力事業団によるルサカの貧困地区住民の健康増進事業に参加してはや5年になる。

AMDAは現在アフリカで、ザンビアやケニア、ウガンダ、ルアンダ、ツプチの5カ国で活動している。ザンビアの緊急救援センターが成功すれば他の国にも波及させる予定だ。この緊急救援センターのネットワークの上をAMDA多国籍医師団が救援活動に走り回る夢を見た。

必要だ。医療チームはAMDAザンビア支部が責任を持って編成する。医療チームの主力はチャイナマ医療技術大学校だ。同支部は00年12月に隣国のモザンビーク大洪水で被災者救援に医療チームを派遣した実績がある。

この緊急救援センターの中核施設は車両隊と車両保守管理センターからなり、緊急医療チーム

と救援物資をタイムリーに秩序をもって派遣できる体制確立が(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)